

活動報告（2001年度）

- | 月 日 | 報告者および報告論題 |
|--------|--|
| 5月26日 | < 報告 > 徳永昌弘氏（日本学術振興会特別研究員 京都大学）
「ロシアにおける企業改革と地域社会の変容
——パイカリスクセルロース・製紙コンビナートの事業転換プログラムを
めぐる対立——」 |
| | < 報告 > 横川和徳氏（京都大学大学院）
「地方財政の視点から見た1990年代ロシアにおける『地方分権化』」 |
| 6月4日 | < 報告 > イリーナ・チホーツカヤ氏（モスクワ大学）
「ロシアの現在——経済と市民生活——」 |
| 6月23日 | < 報告 > 溝端佐登史氏（京都大学）
「市場移行10年のロシア政治経済再編状況——ロシア調査報告——」 |
| | < 報告 > エミール・ルーディック氏（ロシア連邦民営化・企業家省附属大学）
「ソ連崩壊後ロシアの社会・経済状況」 |
| | < 通 訊 > 田中雄三氏（龍谷大学） |
| 8月2・3日 | 第20回 夏期研究大会 |
| 8月2日 | 第1セッション：共通論題 歴史のなかでソ連社会主義を探照する
コーディネーター：田中宏氏（立命館大学） |
| | < 報告 > 塩川伸明氏（東京大学）
「歴史の中のソ連社会主義」 |
| | < 報告 > 富岡□一氏（広島大学）
「ロシアの資本主義化の歴史的先例」 |
| | < 報告 > 溝端佐登史氏（京都大学）
「ロシアの移行10年から見たソ連社会主義」 |
| | < コメント > 森岡真史氏（立命館大学）
林裕明氏（島根県立大学） |
| 8月3日 | 第2セッション：自由論題
コーディネーター：芦田文夫氏（立命館大学） |
| | < 報告 > 松本かおり氏（大阪大学大学院）
「体制移行期ロシア社会と職業威信」 |
| | < コメント > 溝端佐登史氏（京都大学） |
| | < 報告 > 徳永昌弘氏（日本学術振興会特別研究員 京都大学）
「ソ連における産業立地と官僚機構
——ゴスプラン文書『バイカル湖の汚染防止問題に関する専門家会議資
料』（РАЭФ.4372 О.66 ДД.1245-1248）の検討を中心に——」 |
| | < コメント > 長砂實氏（関西大学） |

第3セッション：共通論題 移行経済10年を総括する

コーディネーター：水田明男氏（大阪外国語大学）

- < 報告 > 柳原剛司氏（京都大学大学院）
横川和穂氏（京都大学大学院）
伏田寛範氏（京都大学大学院）
- < コメント > 芦田文夫氏（立命館大学）
田中宏氏（立命館大学）
加藤弘之氏（神戸大学）
- 9月29日 < 報告 > 小西豊氏（岐阜大学）
「裏切られた『体制転換』——8ヶ月間のモスクワ在外研究報告——」
- < 報告 > 高田公氏（京都大学大学院）
「移行諸国における金融部門改革」
- 10月27日 < 報告 > ペトロ・バヴリネク氏（ネブラスカ大学）
「中東欧諸国の自動車産業——外資とリストラ——」
- 11月24日 < 報告 > 田中宏氏（立命館大学）
「東欧におけるグローバル化と地域変容」
- < 報告 > 溝端佐登史氏（京都大学）
「バルト諸国の市場経済化と多民族社会
——経済的側面からの接近——」
- 12月15日 < 報告 > 家本博一氏（名古屋学院大学）
「ポーランドの経済変動とEU正式加盟問題」
- < 報告 > デヴィッド・ダイカー氏（サセックス大学）
「ロシアのWTO加盟」
- < 報告 > 加藤志津子氏（明治大学）
「プーチン政権とロシア企業——有力実業家の相貌の分析から——」
- < コメント > 藤原克美氏（大阪外国語大学）
- < 報告 > 林裕明氏（島根県立大学）
「体制転換と社会意識——ホモ・ソビエティクスの変化を中心に——」
- < コメント > 溝端佐登史氏（京都大学）

編集後記

ここ数年の号を振り返ると、ふたつの傾向が見えてきます。ひとつは、外国人研究者の論文が定期的に掲載されていることで、本号はアメリカの中東欧研究者による理論的な論考でした。来年度の号にも、すでに二名の方を予定しています。もうひとつは、研究論文

の投稿が目に見えて増えてきたことです。双方とも当初から意図していたわけではなく、今になって気づいたというのが正直なところですが、本誌の今後の展開を占うことになるかもしれません。(M. T.)